

関連文化財群

『豊川市文化財保存活用地域計画』では、市域に点在する様々な文化財を地域の歴史文化の特性と関連付け、一定のまとまりとして捉えた6つの関連文化財群を設定しています。東部中学校区域の関連文化財群は下記のとおりです。

関連文化財群① 本宮山や豊川を始めとした自然環境と風土

ストーリー	校区の東側を流れる豊川は、肥沃な土壌や豊かな生物相の形成という恩恵をもたらすとともに、地域住民にとっては水害が生活を脅かす存在でもありました。また、豊川右岸に形成された河岸段丘近くには花井寺・三明寺・豊川稲荷（妙厳寺）などが建立され、段丘下の沖積低地には縄文・弥生時代以来の人々の営みもありました。		
関連文化財群の主な構成要素	- 麻生田大橋遺跡 - 三明寺	- 宝飯の泉 - 霞堤	- 土筒神明社 - 玉林寺のクス

関連文化財群② 数多く築造された多彩な古墳

ストーリー	豊川左岸に所在する古墳時代前期の前方後方墳である勝山第1号墳、右岸の河岸段丘上に築かれた古墳時代後期の群集墳に先行するとされる上野古墳群、後期の群集墳である円福原古墳群などがあります。市内には430基以上の古墳が造られ、その出土品の一部を桜ヶ丘ミュージアムで展示しています。		
関連文化財群の主な構成要素	- 上野第1号墳 - 円福原第3号墳	- 勝山第1号墳 - 上野第5号墳出土埴輪	

関連文化財群③ 市域で形成された大江定基伝承

ストーリー	平安時代中期に三河国司であった大江定基 おおえのきだもと に因む伝承が、三明寺・花井寺・船井山延命寺にあります。三明寺の本尊は定基が赤坂の長者の娘力寿の面影を弁財天像として刻み納めたとされ、また定基の出家によって妻となる願いが叶わず尼となった豊川の長者の娘、ふない・いわい・はないの庵の跡に建てられたのが延命寺・花井寺であるとも伝えられています。		
関連文化財群の主な構成要素	- 花井寺 - 船井山延命寺	三明寺の弁財天像	

関連文化財群④ 近世東海道を中心とした街道交通

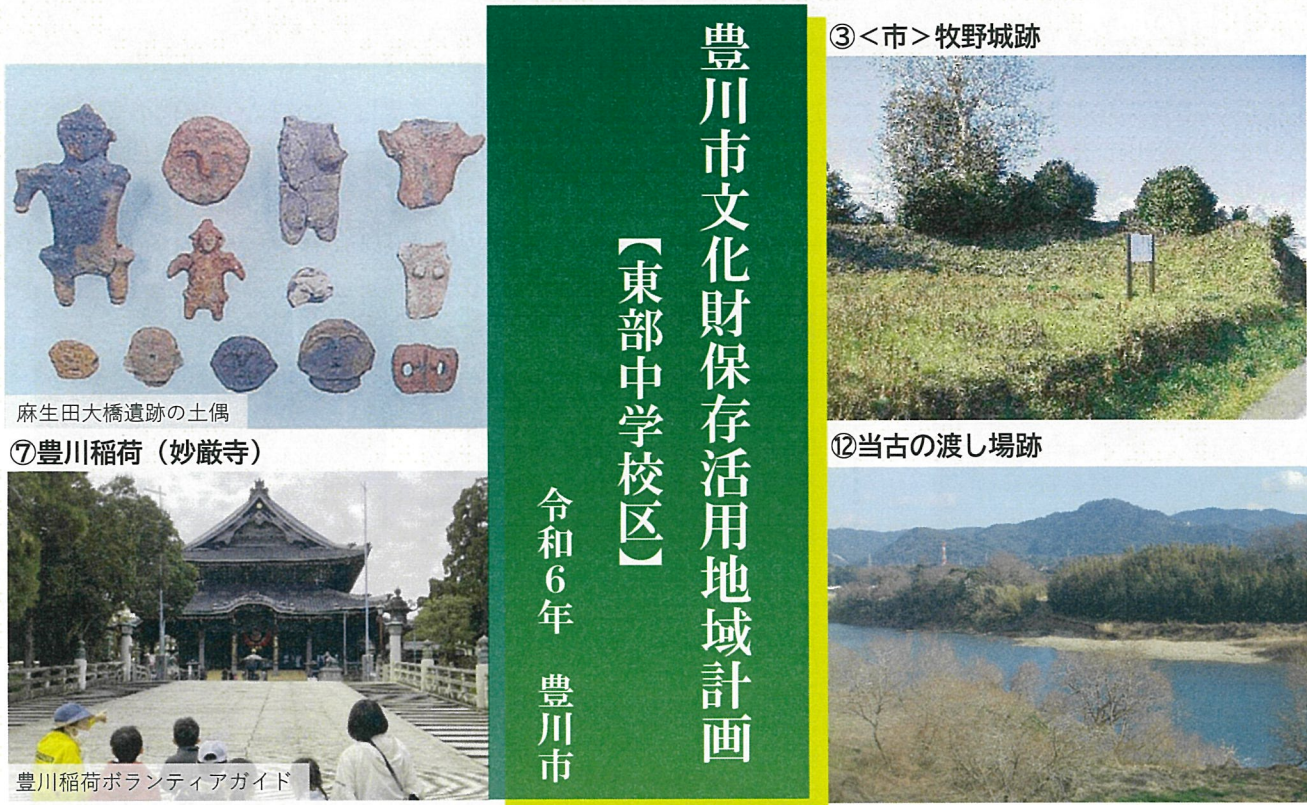
ストーリー	江戸時代、校区には東海道の御油宿から分岐し、浜名湖北岸を経由する本坂通（姫街道）、また東海道の小坂井を起点として東三河と信州飯田を結ぶ伊那街道が通じていました。これらの街道は交易の道であると同時に、豊川稲荷や鳳来寺山・秋葉山などに続く参詣の道としても多くの庶民が利用するようになりました。庶民の旅が盛んになると豊川稲荷への参詣者も増え、門前町としての活気がもたらされました。		
関連文化財群の主な構成要素	- 妙厳寺（山門・禅堂・総門・本殿ほか） - 進雄神社の例大祭	- 本坂通一里塚 - 豊川稲荷と門前	

関連文化財群⑤ 戦国時代から江戸時代までの支配の変遷を物語る文化財

ストーリー	戦国時代、豊川流域に支配を広げた牧野氏が最初に築いたとされる牧野城跡があります。牧野氏は、周辺の土豪との勢力争いを繰り返しながら、今川氏、ついで松平（徳川）氏の配下となりました。江戸時代、度々支配の変わった豊川村以外の校区内の村々は、全期間を通じてほぼ吉田藩に属していました。		
関連文化財群の主な構成要素	- 牧野城跡 - 讃岐屋敷跡	- 花井寺 - 勝山城跡	三明寺

関連文化財群⑥ 豊川海軍工廠と豊川市

ストーリー	昭和20（1945）年8月7日、豊川海軍工廠は米軍の攻撃により多くの犠牲者をだし、8月19日には海軍工廠主催により妙厳寺（豊川稲荷）で告別式が行われています。翌年には戦没者の供養塔が境内の一角に建てられ、供出によって失われていた梵鐘は、海軍工廠の金属資材を使って鑄造されています。また、桜ヶ丘ミュージアムでは豊川海軍工廠に関する資料の収集を行い、毎年8月7日に合わせて、「豊川海軍工廠展」を開催しています。		
関連文化財群の主な構成要素	- 豊川海軍工廠戦没者供養塔 - 妙厳寺の梵鐘	桜ヶ丘ミュージアム収蔵資料一式	



自然的・地理的環境

東部中学校区は、豊川市の東部に位置し、豊川とよがわの流路を豊橋市との境界としながらも、三上橋付近では左岸まで広がっています。地形的には山地といえるほどの高所はありませんが、右岸域に展開する河岸段丘と沖積低地は大きな特徴といえます。

校区内には東名高速道路の豊川ＩＣがあり、国道151号が接続しています。また、（主）国府馬場線・国道362号（姫街道）や（主）東三河環状線も主要な道路に位置付けられます。ＪＲ飯田線と名鉄豊川線が通り、豊川駅と隣接する豊川稲荷駅の周辺には高密度な市街地が形成されています。

歴史的環境

豊川右岸の段丘崖下には、本市の縄文時代を代表する麻生田大橋遺跡があり、沖積地の自然堤防上には弥生時代の集落が営まれるなど、古くから人々が居住していたことが分かっています。

東三河の古墳の多くは豊川の中・下流域に分布しており、校区内には豊川左岸に勝山古墳群、右岸に上野古墳群や円福原古墳群などが築かれています。律令制度下の木簡には、豊川市の名称の由来である「豊川郷」の地名がみえ、人々の往来が盛んになった鎌倉時代以降には、豊川（飽海川）の渡河地として古宿や当古などが栄えるようになりました。江戸時代には、本坂通（姫街道）や伊那街道が物流だけでなく、庶民の参詣の道となったことで通行量が増え、豊川稲荷やその門前が大いに賑い、明治30（1897）年の豊川鉄道の開通は参詣客の増加に拍車をかけることになりました。

また、豊川流域を中心として「笹踊り」、手筒・綱火といった煙火文化も江戸時代から行われるようになり、現在まで受け継がれています。

歴史文化の特性

豊川と共生しながら発展を遂げてきた地域にあって、江戸時代以降には、本坂通が東西の、伊那街道が南北の交通軸となって人々が往来することで歴史文化が育まれてきました。

文化財の概要

校区の指定文化財等は、24件です。社寺が所有する建造物や美術工芸品などのほか、近代の登録建造物があります。豊川市史や既存の文化財関連調査、市民を対象に実施したアンケート調査から把握した未指定文化財（歴史文化資源）は、69件あります。

⑥桜ヶ丘ミュージアム



⑦豊川稲荷（妙厳寺）



総門



豊川稲荷の門前



豊川海軍工廠戦没者供養塔

⑧花井寺



⑤豊川進雄神社



<県> 進雄神社の奉納綱火



進雄神社の例大祭

②上野第1号墳



①玉林寺

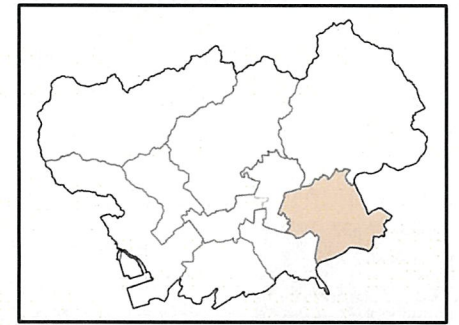


<市> 玉林寺のクス

④トヨテック本社



<登> トヨテック本社社屋・倉庫
(旧豊川電話中継所本屋・倉庫)



種別			国指定等	県指定	市指定	合計	未指定文化財等
有形文化財	建造物		4	1	0	5	18
	美術工芸品	絵画	0	0	2	2	0
		彫刻	1	0	5	6	2
		工芸品	0	0	2	2	3
		書跡・典籍	0	0	6	6	0
		古文書	0	0	0	0	4
		考古資料	0	0	0	0	2
		歴史資料	0	0	0	0	7
	小計		5	1	15	21	36
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	2	
	無形の民俗文化財	0	1	0	1	3	
	小計	0	1	0	1	5	
記念物	遺跡	0	0	1	1	13	
	名勝地	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	1	1	9	
	小計	0	0	2	2	22	
文化的景観			－	－	－	－	1
伝統的建造物群			－	－	－	－	－
その他 (市独自の設定)	史話と伝承		－	－	－	－	3
	工廠遺産		－	－	－	－	2
合計			5	2	17	24	69

令和6年4月22日現在

様々な取組主体

豊川進雄神社奉納綱火保存会

豊川進雄神社例大祭に奉納される綱火の伝統を、古式に倣って未永く保存継承していくことを目的として豊川連区内居住者の有志で構成されています。

豊川稲荷ボランティアガイド

豊川市観光協会に登録されたボランティアガイドが総門付近に待機し、原則毎日午前10～午後3時まで豊川稲荷（妙厳寺）の案内をしています。

豊川高校生徒会

令和2（2020）年に解散した八七会の意思を継ぎ、毎月7日に豊川高校の生徒会を中心とした生徒により、供養塔の清掃活動を行っています。

⑨三明寺



宝飯の泉



<国> 三明寺本堂内宮殿



<国> 三明寺三重塔

⑩さめき屋敷公園



讃岐屋敷跡